

未来の防災教育を博士・修士学生自ら提案
防災科学技術研究所の一般公開で
“学際連携×社会実装”の試み
～クイズで共に学び次世代に紡ぐ 東日本大震災の記憶と記録～

2022 年に締結された防災科学技術研究所と東北大学の「連携及び協力の基本協定」に基づき、東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラムに所属する学生たちは、講義や現地研修を経て、防災情報の伝達・浸透における課題意識を共有しました。これを契機に、防災科学技術研究所との共同プロジェクトが立ち上がりました。防災は老若男女に共通するものでありながら、防災意識を向上させるためには年代等に応じて異なるアプローチが求められる難しさがあります。近年警鐘が鳴らされている南海トラフ地震による被害や気候変動に伴う豪雨による洪水被害等から国民を守るため、防災情報の普及・防災意識の向上を目指して Hagi iZ が結成され、その第一歩として本取り組みが実施されました。

チーム総員 15 名のうち、本一般公開には 6 名が参加し、東日本大震災に関する知識を小学生に伝えることを目的としたクイズラリー「しってる?? 3.11～東北大生とまなぼうっ～」を企画・実施しました。クイズの内容は、地震や津波の規模がどれほど大きいかを身近なものと比較して考えられるものとなっていました。東日本大震災を経験していない小学生がクイズを回答する過程で規模の大きさを実感できる工夫を凝らしました。たとえば、マグニチュード 9.0 の地震のエネルギーは何リットルの水を沸騰させられるエネルギーに相当するかという問題では、地元の霞ヶ浦の水を 707 回も沸騰させられるという事実親子ともに驚いており、地震のエネルギーの大きさを実感してもらう契機となりました。たとえば、東日本大震災の津波の最大高さに関する問題では、門脇小学校の写真を展示することによって、3 階までの高さの津波が襲ったことを知ってもらうきっかけとなっていました。3 階建ての防災科学研究本部棟を参考にしてその大きさを実感している小学生が多くみられました。参加した子供たちの防災意識がクイズラリーを通してどの程度向上したかを計測するアンケートも実施し、その効果について検証する予定です。

最高学位を志す博士・修士学生が自ら対話し、防災意識の向上を図ることにより、他大学の学生団体等との連携・共創の主軸となるなど、次世代の防災におけるリーダーシップを発揮することが期待されます。今後、以下の活動を通してさらなる防災意識の向上を図ります。

- 日本各地の防災を志す大学生サークルとの合同勉強会の企画
- 子供を対象とする仙台・宮城サイエンス・デイ 2025 への出展に向けた準備
- 本活動を通して得られたデータをもとに防災に関する学術的知見の論文化

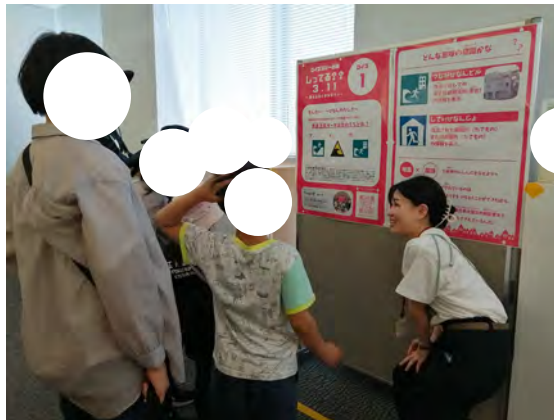


写真 1. 解説の様子（撮影：防災科学技術研究所）



写真 2. 解説の様子（撮影：防災科学技術研究所）

【謝辞】

本活動は防災科学技術研究所よりご支援いただきました。ここに記して、感謝の意を示します。

【問い合わせ先】

（連携協定に関して）

東北大学研究推進部研究推進課研究推進係

TEL: 022-217-5014

Email: kenkyo-kikaku*grp.tohoku.ac.jp（*を@に置き換えてください）

（活動内容に関して）

東北大学変動地球共生学卓越大学院
プログラム 4 期生 池本敦哉

TEL: 022-217-5014

Email: ikemoto.atsuya.s1*dc.tohoku.ac.jp（*を@に置き換えてください）